

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

平成の世も残り僅かとなりましたが、皆様に於かれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、私ども県議会議員にとって任期中最後の議会となる2月定例議会は2月25日から始まり、「日本一元気な愛知」の実現に向けた平成31年度一般会計予算案をはじめ、本県を取り巻く社会経済情勢の変化に柔軟かつ的確に対応し、迅速・着実に取り組むための県庁組織の見直しなど62議案を最終日の3月20日に可決承認し閉会となりました。

また、豚コレラへの早期対応や国庫補助金等の確定に伴う所要の措置、並びに平成31年度当初予算編成に向けての財源確保に向けた補正予算案など27議案についても会期中に可決しており、本議会では計89議案を可決承認しました。

その中でも特に来年度予算については、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2026年のアジア競技大会、2027年度のリニア開業という節目の年にターゲットを置きつつ、私が所属しております「新政あいち県議団」としても出馬を支持し、2月に行われた愛知県知事選挙において、これまでの最多得票となる約177万4千票を獲得として3期目の当選を果たした大村知事が、選挙戦を通じて訴えられた「愛知が先頭に立って東京一極集中にストップをかけ、日本の成長を力強くリードしていく」との想いが込められており、ジブリパークの実現・リニア大交流圏の形成・産業首都あいちなど、12の柱立てから編成されています。

本県は人口増加を続ける数少ない県の一つですが、2020年頃に人口のピークを迎え、遂に人口減少へ突入していく事から、安心・安全で活力に溢れ、誰もが魅力を実感できる愛知を目指し、微力ではありますが今後も全力で取り組んでまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 